

あ  
と  
が  
き

宮崎県（県の福祉保健部感染症対策課）が「キャッチアップ接種バージョン残り期限  
わずか！HPVワクチンを接種しよう！」と2023'11月28日にYouTube動画をアップしました。

宮崎県は子宮頸がん罹患率が日本ワースト1位という事で、キャッチアップ世代に向けて  
アピールしていました。

キャッチアップの接種の対象はH9年度生まれ～H18年度生まれ（1997年～2007年）の  
女性、R5年4月からはH18年度生まれ、またH19年度生まれの方も通常の接種対象の年齢  
（小6～高2）を超えてもR7年3月末までの接種ができます。

子宮頸がんは、HPVワクチン接種と検診によって予防できるがんですが、日本では  
HPVワクチン・検診ともに十分に実施されておらず、罹患率、死亡率ともに増加していて  
年間約1万1000例の女性ががんと診断され約3000人が死亡しています。（先進国で  
もっとも高い罹患率、死亡率です）

背景としては、2013年～2021年の政府による積極的勧奨の控えがあり本格的に再開  
されたのが2022年からであることにあります。

2022年よりHPVワクチンの接種勧奨が再開されましたが、接種率は十分に回復して  
いません。

定期接種（小6～高2）も、キャッチアップ接種率も低迷しています。

欧米諸国ではHPVワクチン開発後7～8年で高い感染予防効果が確認され男子に接種  
（オーストリア）もすすめられています。

産婦人科医会も、政府による積極的勧奨が控られていた期間も「救える命を救う会」  
などを通し、HPVワクチン接種をすすめる活動を行い、アピールもしてきました。

私自身も、HPVワクチンが開発され、「がんが予防できる！」と喜び、性教育の場でも、  
臨床の場でも、相談を受ければ「もちろん、推奨します。お友達にもすすめてね！」  
とアピールしてきました。

せっかく再開されても、がん検診やワクチン接種率は中々あがりません。

行政もただ個人に通知を出すだけでなく本格的な接種率アップの施策をと考えます。

協働していきたいと思います。

（編集委員長 貞永 明美）